

令和7年度「地区別プラン策定」に関する意見交換会 若山地区 協議記録

日 時	2025年11月11日（月） 18:00～19:40
場 所	若山小学校 体育館

参加者：46名

【開会のあいさつ】

森井市議会議員：

能登半島地震から2年近くになる。その後奥能登豪雨もあった。これまで経験しなかったことが、次々と起きた。復興はまだまだ時間がかかるが、少しづつ前進していると感じる。若山町は海に面しておらず災害が少ない印象もあるが、若山川による災害は何度も起きている。着実に一歩ずつ前進していきたい。力を合わせてがんばっていきましょう。

北風区長会長：

1年前にもこのような機会があった。これからが本当に大変だと思う。本日の意見交換会では、真剣な議論をいただくようお願いする。

市長：

能登半島地震から1年10ヶ月あまり、そして奥能登豪雨から1年1ヶ月あまりが経過しているが、まだまだ皆さん厳しい状況にあると思う。また、悩ましいことも多々あると思う。本来であれば夏から秋にかけて実施を考えていた土砂災害の対策工事、道路復旧の見通し等についての説明を行うとともに、地区別プラン策定に関する意見交換会を行いたい。石川県珠洲土木事務所からも説明をいただく予定である。

工費解体に関して若山町においては、申請数891件に対し876件が完了しており、残り15件となり完了しつつある。しかし、地域によっては更地がどんどん増えている。「新たなまちのかたち」をどうしていくか、昨年度から各地区において議論を重ねていただいている。これだけ大きな被害を受け、尊い命も失われた。災いを転じ、より安全で、快適な若山町にしていく。

特に若山町においては、旧若山保育所を解体し、現在の公民館の復旧は難しいため、新たに建て替え、合わせて若山分団の待機所を整備できればと考えている。旧若山保育所の場所を若山町の新たなコミュニティセンターとなるよう整備できればと思う。親子議会では、若山小学校の児童から、若山町の自然を活かしたキャンプ場など、多くの人が訪れるような魅力がある拠点整備ができないかご意見をいただいた。皆さんと共に、より魅力ある、若山のまちづくりをどうやって進めていくか、議論を重ねたい。

また、人口減少を食い止める、維持を図るということは、珠洲にとっても若山町にとっても重要である。復旧を迅速に進めること、復興公営住宅を含め、安定した住まいを確保することが大事である。そのうえで、より魅力ある最先端の復興を成し遂げることが重要だ。

特に道路復旧に合わせ道路幅を広げることや、復興公営住宅をどこでどのように整備するかについてはできるだけ早く固め、具体的に進めていく。本日は、そのような点について説明し、皆様方からご意見を頂戴したい。現在、4回目の復興公営住宅の意向調査を進めている。回収率は75%ほどであるが、まだ回答されてない方は早めに回答していただくようお願いする。

【資料説明】

資料1 復旧・復興箇所図

【参加者からの意見】

参加者：

地図上で灰色で示されている道路は、被災なしで復旧予定が無い箇所となっている。実際は側溝が傷みグレーチングが上がっていたり、舗装面が傷んでいる。復旧はしないのか。

復興公営住宅に関して、前回までの説明では中田地区に候補地があったが、本日の資料では無くなっている。理由を教えてほしい。

珠洲市：

中田地区の道路状況に関し、適切な表現になっておらずお詫び申し上げる。地図上では被災なしと示しているが、グレーチングの飛び上がり、側溝同士が衝突し上がっているなど、細かな復旧は今回の図面では省略している。そのような箇所も一体的に復旧する。

珠洲市：

復興公営住宅に関して、中田地区においてもご要望があることは把握している。現在、火宮地区で建設を予定している。実施中の意向調査結果をふまえ検討したい。中田地区に関しては74.5%の回収状況で3世帯の希望をいただいている。公営住宅の建設は、10世帯が一つの目安になる。

市長：

地域コミュニティの維持という観点から、きめ細やかに整備を行いたい。1戸、2戸では難しい。まとまった単位になれば具体的な検討を進める。中田地区の要望される用地に関しては把握している。

参加者：

神主橋であるが、令和12年完了となっている。完成まで仮橋を架けるなどの対応をお願いしたい。

珠洲市：

仮橋については事業採択の要件があり、迂回できる橋から2km以上離れていることが条件となる。神主橋は2km以内に迂回できる橋があるため仮橋を架けることができない。河川や橋の工事は、非出水期と呼ばれる水の少ない期間、10月から4月にかけてのみ工事ができる。そのため工事期間が長くなる。

市長：

大瀬戸橋で迂回となるとかなり遠回りになるが、基準を満たしていないと復旧事業として認められない。工事期間も長い。できるだけ前倒しで進めたい。皆様にはご迷惑をおかけする。

参加者：

4点ほどお願いしたい。1点目は復興公営住宅の整備に関する事である。上黒丸地区は、仮設住宅の期間が終われば賃貸住宅になる。大変ありがたく、多目的に利用ができると思っている。地域の状況は時間が経過すると変わってくる。引き続き意向調査をしていただけると聞き安心しているが、

上黒丸地区は高齢者が多い。準半壊、一部損壊のため住宅で暮らしている方も多いが、今後、身体の都合が悪くなる方もいらっしゃると思う。継続的な意向調査をお願いする。

市長からも話があったが高齢化が進んでいる上黒丸地区では、若い人たちを中心に住む人を増やしていくかないと地域の存続が厳しい。支援に来ていただいた方々、地域間交流をしている人に対し、住んでいただく取組みを行いたいと思っている。そのような方々が、泊まれる、あるいは二地域居住の拠点として活用できるような多様な利用が可能という話を聞いた。今後柔軟な対応をお願いしたい。

2点目は河川である。大坊地区から上流は非常に大きな被災を受けている。私は宗末地区であるが、砂防堰堤が3箇所あった。地震で崩壊し、豪雨で被害が拡大した。地震の影響で河川自体が隆起し、周辺も隆起したため、砂防堰堤が崩れていた。そこに大雨があり、周りを洗掘したり、堤体が崩れたりした。地滑りを防止するためにも、砂防堰堤を優先して復旧いただかないと河床が不安定なままで護岸を壊してしまうことになる。8月の雨でも大型土のうを積んでいただいたが、宗末地区では防ぎきれなかった。隆起していることを前提に河床の安定を優先いただきたい。

3点目は市道である。上黒丸地区から南山に行く市道に関し、仮復旧をしていただいたが、本来勾配が急であり、山腹崩壊が原因で道路が壊れている。若山・上戸線も同様であり、土砂災害の対策が必要である。特にひどいのは南山の市道、洲巻地区から上山地区に抜ける市道である。山が崩壊したまま市道を復旧している。土砂災害の対策を合わせて行っていただかないと、何かあれば通れなくなる。

4点目である。上黒丸地区の話になるが、河川、道路など復旧に相当な時間がかかると想定されるが、それまでに何もしなければ地域の元気が無くなってしまう。地域の資源を活用し、復興を進めたいと考えており、外部から若い力を入れたい。しかし、現実的には来てくれる人を探すのは大変である。復興基金や補助事業も活用したい。地域として一生懸命やるが、市役所の皆さんとの協力なしには進まない。ご支援、ご協力をお願いしたい。

市長：

復興公営住宅の入居に関し、準半壊、一部損壊の方でも、年齢を重ねると体調面で変化があり、そこから公営住宅に入居できないかというお話があった。被災され応急仮設住宅にいらっしゃる方等が入居の対象になる。ただし3年経つと一般的な公営住宅になる。対応できるように進めていきたい。

外からの支援をいただく上でも、寝泊まりする場所がない。珠洲市全域の問題である。応急仮設住宅は整備してから2年経てば柔軟な対応ができるようである。この点は石川県と国で協議中であるが目的外使用となるため、月々の家賃をお支払いいただき、住んでもらう形になると思う。1泊、2泊の宿泊は難しいかと思うが、具体的に相談いただきたい。

上黒丸地区の市道を復旧する上で、山を治さないとリスクがずっと残るという指摘があった。その通りだと思う。

珠洲市：

市道に隣接している斜面について、地すべり対策が必要な箇所は事業採択をいただきたい、対応を進める。砂防堰堤を復旧し、河床を安定させる必要性についてもご指摘をいただいたが、砂防設備も災害復旧の採択をいただいている。河床に関し、地盤隆起については河川復旧する際に状況を考慮し対応を進める予定である。

参加者：

河川復旧も急ぐが、砂防堰堤の復旧を優先いただいたほうが、復旧の手戻りが少なくなると思う。

石川県：

河川と砂防関係を並行して進める。

市長：

農業の話もあった。上黒丸地区の美しい棚田をなんとか復活できないかと思う。草がどんどん伸びている状況である。上黒丸地区は特に寒暖差があるため、非常に美味しい米が穫れる。農地の復旧が必要だ。洲巻地区のため池も被災しており復旧が必要であることを認識している。耕作する人がいるのであれば、復旧を進める。珠洲市役所に中長期派遣で来られている山田さんも、復活に向け頑張りたいと取組んでおり、新聞でも取り上げられ心強く思っている。なかなか1人では難しいこともあり、来年、再来年どうなるのか、将来のかたちが見えてくれば、行政としても支援のかたちが見えてくると思う。

地域の皆さんと行政と一緒に取り組めば見えてくる。地域からの話をいただきながら、市役所もいろいろ考えていく。

参加者：

復興公営住宅の件について確認したい。仮設住宅にお住いの方は調査されていると思うが、みなしが仮設に入居され、市外に住んでいる方の意向は調査しているのか。

珠洲市：

調査している。調査対象は、建設型応急仮設住宅の入居世帯、みなしが仮設住宅の入居世帯、公費解体を申請したが仮設住宅に入っていない世帯である。

参加者：

市外のみなしが仮設に入居している人で、戻ってきたい人は多いのか。

市長：

集計中である。建設型応急仮設住宅に入居されている方に関しては、85%回答いただいている。市外のアパートなど、みなしが仮設に入居している方の回答率は64%である。電話して回答をお願いしている。仮設住宅であれば、珠洲ささえ愛センターが直接足を運んで案内しているが、みなしが仮設については電話で確認し、漏れのないように意向を伺っている。

珠洲市：

現時点の集計であるが、火宮地区で建設を予定している復興公営住宅について20世帯ほどの意向をいただいている。大坊地区にある若山町第3団地は10世帯程度、上黒丸地区にある若山町第4団地は15世帯の意向があった。中田地内は3世帯、出田地内においては5世帯ほどの意向をいただいている。調査結果は、まとめ次第、ホームページでお知らせする。

市長：

若山町で火宮地区以外を希望する方もいらっしゃる。まとまった数になれば、整備箇所を増やす形で進めていきたい。

参加者：

火宮地区ではなく、飯田町に近いところに復興公営住宅があれば、住みたい人が多いと思う。

市長：

そのあたりも含め、意向調査の回答が100%に近づくよう対応し、把握していきたい。

珠洲市：

みなしふ設に入居している方は、健康サポート推進室で連絡している。仮設住宅の方は訪問できるからよいが、みなしふ設の方は電話に出ていただけないケースが多く、回答率を上げることができない。こちらのほうへ帰ってきて復興公営住宅に入りたいといったご意向をお持ちの方をご存知であれば、アンケートを出すようにお伝えいただけたとありがたい。

参加者：

上山地区から洲巻地区に向かう道路は発災後、復旧は難しいと思うくらい被害が大きかったが、通れるようになり感謝している。しかし、雨が降るたびに土砂が流れ また道が悪くなる。白滝地区から上がって洲巻地区に向かうところに、砂利を入れていただきなど対応をお願いしたい。

市長：

2、3週間前に自分も現地を運転したが、安全に運転できる状況ではなく、なんとか車で通れるレベルかと思う。

珠洲市：

雨が降るたびに泥が流れ込んでいる点は認識している。パトロールを行い応急対応する。

市長：

資料4ページでは、被害なしで復旧予定がない色付けになっているが、今、確認したところ、調査もできておらず色がついてないということである。復旧する方向で進めていく。

参加者：

1点目はハードに関する点である。藤見橋の仮橋が整備された。大変な工事だったと思う。関連して、若山ダムであるが、地震の前から改修工事を進めていたと思う。完了した状態で、被災したのか、途中の状態だったのか。豪雨災害で、いろいろなものが流れ込んだ。決壊するようなことがあれば、集落もあり、大きな被害となる

土地改良区：

若山ダムに関しては、県の農林事業で改修工事を地震前から実施しており、完了前に地震が起きた。現在も引き続き工事中である。地震後による被災等があれば、県の方に伝える。

市長：

地震被害の復旧と、従来の改修工事の両面で実施中であると思われる。

参加者：

2点目は、復興公営住宅である。地図を見ると、上黒丸、大坊、火宮地区に整備予定である。心配しているのは高齢者、独居老人が多いことである。復興公営住宅に入居し、年齢が高くなる。コミュニケーションの面、人との関わりが最も大事な要素だと思う。同じ集落の方が近くに住み、コミュニケーションが生まれる状況をつくっていただきたい。平穏に笑顔で暮らせるよう配慮いただきたい。

市長：

コミュニティを維持していくことが重要だと思う。コミュニティそれぞれに復興公営住宅を整備できればよいが、1戸、2戸では難しい。復興公営住宅整備計画では10戸以上との方針を示しているが、できるだけ実情に寄り添っていきたい。珠洲市全体で1箇所にまとめて700戸、マンションを何棟か建ててしまうと、コミュニティが維持できず、入居者のメンタル面もよくないと思う。バランスを取って進めていきたい。

参加者：

経念地内の国道であるが、掘割りのところの橋は拡幅するのか。現道のままでは、狭く交通に支障がある。また経念地内に2か所マンホールが飛び出たところがある。通れるようになっているが、撤去等の予定はあるのか。

市長：

石川県は創造的復興という考え方で、復旧に加え、より快適な道路にするよう検討いただいている。

石川県：

国道249号について、経念地内の割堀りのところは狭いため広げる予定である。路肩を少し広げ走りやすい形で復旧したいと考えている。

参加者：

高さを下げるとはしないのか。

石川県：

道路の高さを変えることは、考えていない。高さは同じで幅が少し広がる。

市長：

若山のエリアは、下水道から合併浄化槽に切り替わる予定である。

珠洲市：

飛び出たマンホールについては、現在、下水道が使える状況のため、交通に支障がないよう下げる。令和7年～9年にかけて、若山地区の下水道を浄化層に切り替えていきたいと考えている。上流から実施し、浄化槽に切り替わったところから下水道本管を撤去する。

市長：

先ほど中田地区で復興公営住宅のお話があったが、他に皆さんで10戸程度の希望があると思われる地区はないか。

参加者：

今回のアンケートでは、入居希望する団地を選ぶ質問になっており、選択肢の下に集落を記入する回答欄もあったが、説明を聞かない限り分からぬと思う。そのため候補地以外の場所は挙がりにくいと思う。

市長：

その点が気になっている。応急仮設住宅の集会場などでアンケートの書き方説明会も実施しているが、知らずに回答されていない方もいらっしゃると思う。このあたりに応急仮設住宅を建ててほしいという方が一定以上いらっしゃるようであれば、教えていただきたい。用地についても情報をいただければと考えている。

参加者：

土砂、泥を捨てる場所を確保しないと復旧の支障になるのではないか。残土の処理を計画的にできれば、復旧の仕事も進めやすくなると思う。

市長：

大きな課題と考えている。土砂災害の対策工事で生じたこの土砂は、国、県、市の仕事を合わせると相当な量になる。国土交通省の能登復興事務所とも協議し検討を進める。

参加者：

道の話である。凡例では、被災なしで復旧予定が無いと示してあるが、どのような状態でそのような判断をしているのか。例えば、資料1の3ページの右端、国道249号につながる道路は、側溝なども傷んでおり、先日の打合せでも復旧の要望を伝えている。

珠洲市：

小規模な被害も把握している。災害復旧するところは数多くあり、一件一件の状況を確認しながら、国の災害復旧に載せるための協議を行い、何年くらいから着手できそうだという工程を示すことに至っている。現時点で、細い道路については、被害状況は把握しているが、いつごろ復旧に着手できるか示すことができていない。被災していることは確認しており、必ず復旧する。ただし復旧するにも時間を要する。応急対応に関しては雪が降る前に実施する。

市長：

箇所数が多くて、示しきれていない。被災した箇所はしっかりと復旧を進める。

参加者：

農家の方から田んぼの泥を取り除いてほしいという話や、川を直して田んぼを作りやすくしてほしいという話を聞いている。若山地区の川の蛇行している箇所、いびつになっている箇所を直線的に整備し、田んぼもつくりやすくするなど、復興につながる計画を進めていただきたい。応急的な対応では、また復旧しなければならなくなる。農地、河川、道路などをよりよい形にしていってほしい。

市長：

復旧を行っても再度整備すべきところがある。単に土を取り除くだけではなく、平らにする整備や、

再度圃場整備することも含め、協議しながら事業化していきたい。具体的な箇所等があればおっしゃっていただきたい。

道路、河川、農地など土砂を撤去している状況であり、タイミングが合えば、どちらも復旧ができると思う。なるべく手戻りにならないよう、市の農業災害班と県の河川担当と協議しながら進めている。河川復旧に合わせ、農地に入りやすくするなど現地で合わせながら進めていく。

参加者：

アンケートの書き方が分からなかつたという話もあったが、中田地区に復興公営住宅を望む人が3人という結果になっている。実際どれくらいの人が中田地区で住みたいのかについて、別途、市で調査してもらえるのか。それとも地域で調べて、市に示す必要があるのか教えてほしい。

市長：

具体的に、この方、この方と示していただければ助かる。

珠洲市：

名簿にしていただけだと、意向状況と突き合わせることができるため、たいへん助かる。

参加者：

現在ペットを飼っているが、復興公営住宅ではペットは飼えるのか。

珠洲市：

通常の公営住宅はペットは飼えないが、今回は災害の公営住宅であるため、入居時に飼っているペットに限り認める方向になっている。改めてお知らせする。

市長：

具体的な要望、意見をいただいた。特に復興公営住宅については、候補地として挙がっていない場所を希望してよいのか分かりにくかったという点や、特定の地域で整備できないかというお話をいただいた。具体的に希望する方を挙げていただければ、より進めやすい。ただし復興公営住宅についても、できるだけ早く完成できるよう進めていきたい。そのため年内を目途に、この場所でこういう形で何戸整備するという計画を固めたいと考えている。

これだけの被害があった。皆さんにとっても希望になる取組みが大事だと思う。若山町の復興に向けて、こういう取組みがなんとかならないかといった提案もいただきたい。旧若山保育所をコミュニティセンターにする提案も伝えたが、前向きに進むための施設整備、農業の振興など、今後ともアイデアを出し合い、復興を進めたいと思う。若山町の将来、未来に向けて、希望の持てる取組みを進められるように、取り組んでいきたいと思う。より魅力ある最先端の復興を成し遂げていく。今後ともよろしくお願ひする。

以上